

日本語には論理性も国際性もある

「日本語は論理性を欠いた言語である」とか、「日本語では正確な表現が難しい」とかといふ意見をよく耳にしますが、私はさうは思ひません。それ所か、私は「日本語ほど論理性の高い言語は他に無い」と思ひますし、「日本語ほど正確な表現が出来る言語は無い」と思ひます。

ただ日本人は理窟の嫌ひな民族であることは確かです。はっきりした表現を嫌ひます。だから、論理性の高い言葉よりも曖昧な表現を好んで使ひます。それは、日本語が「論理性を欠いてゐる」からでも無く、「正確な表現が出来ない」からでも有りません。さういふ表現が嫌ひだから、使はないだけのことです。

だから、同じ日本人でも、関東と関西とでは言葉の使ひ方にかなりの違いがあります。例へば、関東では「それはお断りします」と言ふ所でも、関西では「考へて置ませう」と穏かな言ひ方をします。「考へて置く」余地は全く無いのに、はっきりと断らないのは、論理よりも情を尊ぶからです。

また、「日本語には国際性が無い」と言ふ人がゐます。「日本語は極

めて特殊な性質が有って外国人には学習し難い」と言ふ人がゐます。然し、私はさうは思ひません。外国人に取って日本語が必要だといふことになりますと、学習するやうになるでせうし、さうなれば国際性の高い言語といふ評価を受けるやうになるでせう。

ローマ帝国の繁栄した時代にはラテン語が、フランスが栄えた時代にはフランス語が国際的な力を有ちました。今、英語が一番ですが、それは戦前はイギリスが、戦後はアメリカが最も実力を有ち、国際的にも最も活躍してゐたからです。

「21世紀は日本が最も活躍する世紀になるであらう」と予言した学者がイギリスにゐましたが、果してさうなれば、日本語が世界で最も国際性の有る言語であるといふ評価を受けることは間違ひありません。

次第に日本が実力を伸ばして来てゐる今では、並の日本人ではとても及ばない程の日本語を操ってゐる外国人が多くゐます。日本語が特別に学習し難い言語であつたら、かういふ事はあり得ないはずです。日本が益々国力を増して行つたら、見事な日本語を操る外国人が至る所で見られるやうになるでせう。